

snowscoot®

取扱説明書

内容物

※完成車の各パーツ仕様は、モデルにより異なります。
 ※フレームキットはフレームとフォークのみになります。

BOARD BOX



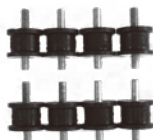
①フロントボード



②リアボード



③ワッシャー付ナット x 8



④ネジり体型ブッシュ x 8

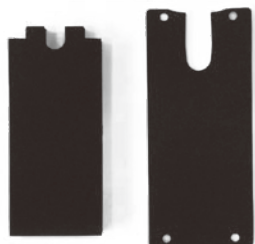


・取扱説明書
 ・保証登録カード・ハガキ
 ・ユーザー購入者同意書

FRAME BOX



⑤フットストラップ



⑥EVAフォーム ⑦アンチスリップパッド



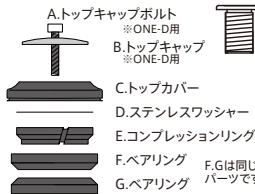
⑦フットストラップボルト x 4



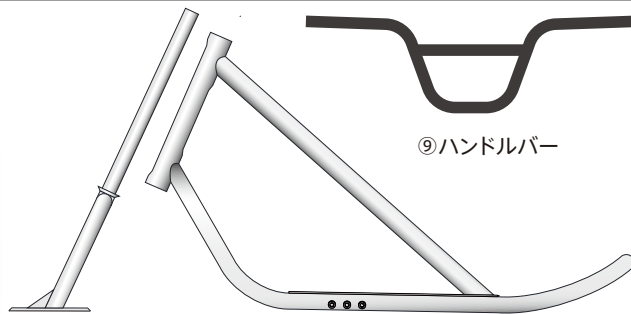
⑧ワッシャー x 4
※フットストラップ用



⑨ナット保持ツール
※Miniのみ

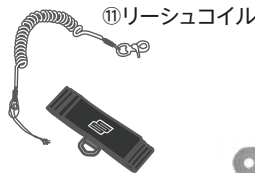


⑩ヘッドセット



⑧フロントフォーク

⑩フレーム



⑪リーシュコイル

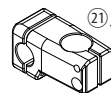
⑫リーシュベルト



⑬調整用シム x 6



⑭ストッパープレート x 2



⑮ステム



⑯グリップ



⑰バーエンド
※ONE、ONE-D、MINIはありません



⑱樹脂ワッシャー x 8



⑲携帯工具
※ONE-Dのみ



⑳スペーサー
 10mm x 1
 5mm x 2



㉑ハンドルバーパッド
※ONE-Dのみ

㉒ステムパッド
※ONE-Dのみ

㉓トップチューブパッド
※ONE-Dのみ

保証規定

保証範囲

ジック・ジャパン株式会社ではスノースクートの材料または加工の欠陥によるフレーム、フォーク、またはボードの交換を保証します。

保証期間

この保証の有効性は、購入日より1年間、最初の購入者が保有している期間中に限り継続されます。この購入記録は最初の購入伝票、または証明書により確認されます。

保証内容

この保証条件の下で、ジック・ジャパン株式会社が欠陥があると認める部品については、無償で交換されます。ただし、輸送費および販売店工費はこれに含まれません。

保証の受け方

この保証を受けることを希望される場合は、ご購入いただいた販売店まで申し出ください。その際、ご購入の際の購入伝票（レシート、領収書）が必要となりますので大切に保管してください。

次の範囲はこの保証に含まれません：事故による消耗や損傷、乱暴な使用による消耗や損傷、不注意による損傷、使用したため通常起こる損傷、不適切な組み立てによる損傷、指定販売店以外でのメンテナンスによる損傷、本来の使用に適合しない部品使用による損傷。snowscoot® 純正部品以外を装着した使用による破損。

免責範囲

ジック・ジャパン株式会社は、本有限保証に記載された以外の保証を行いません。スノースクート指定販売店、関係店、または代理店の全ての責任は、欠陥部品の修理と交換に限られます。直接的、または間接的損害賠償の保証は一切含まれません。

注意

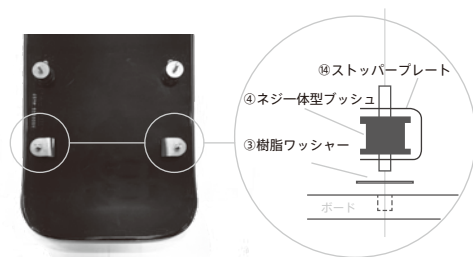
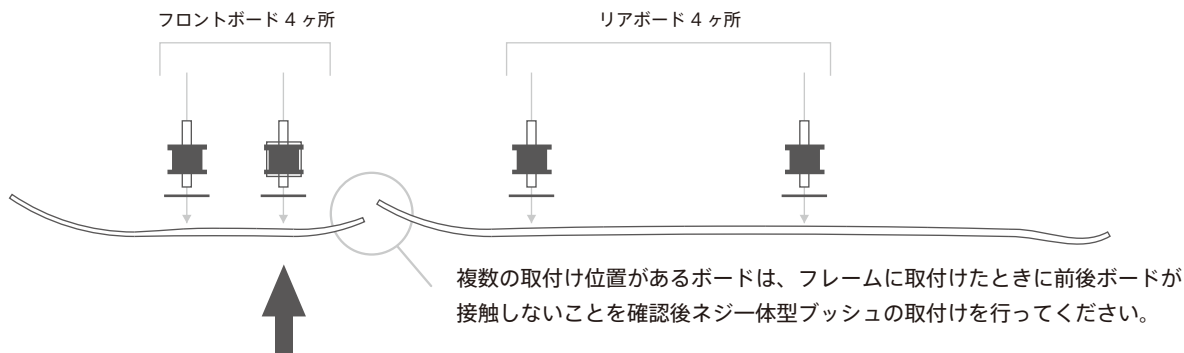
ユーザーは、上記保証規定の範囲に限定された保証のみを受けることができます。ユーザーは、スノースクートの使用中（パークにおける使用、レース等の競技会における使用、競技練習を目的とする使用を含む）の一切の事故によるユーザー及び第三者の財産上の損害、身体の傷害、死亡等一切の結果について、ユーザー自身の責任において使用するものとします。

スノースクートは雪の斜面を滑走する目的で設計、製造、及び販売された乗り物です。雪の斜面以外の場所で使用したり、モーターやパワー装置などの動力装置によって滑走したりすることは、ユーザー及び第三者の財産上の損害、身体の傷害、死亡等を生じるおそれがありますので絶対におやめください。

ジック・ジャパン株式会社、その指定販売店、代理店などは、スノースクートの使用中の事故によるユーザー及び第三者の財産上の損害、身体の傷害、死亡等一切の結果について、いかなる場合においても責任を負いません。

1 ボードの組み立て

①フロントボード、②リアボードに③樹脂ワッシャー、④ネジ一体型ブッシュ、⑭ストッパープレートを取り付けます。ボード側より③樹脂ワッシャー、④ネジ一体型ブッシュの順に取り付けます。締め付けは手で回らなくなるまで締めてください。（工具は使用しません）締めすぎると破損の恐れがあります。※ネジロック剤は不要です。



ストッパープレートの取付け時と装着時の注意

⑭ストッパープレートは①フロントボード後ろ側2か所に、折り曲げた側が内側に向くように取付けてください。

大変薄く鋭利なので取付け時には十分注意してください。



ストッパープレートは④ネジ一体型ブッシュに通常滑走以上の異常な力が万が一発生した場合に破断を防ぐもので、必ず装着してください。

ストッパープレートは大変鋭利なため、手を切らないように十分ご注意ください。

ストッパープレートの取付方法



- (1) ④ネジ一体型ブッシュの長い方のボルトに④ストッパープレートの片方の穴を入れてください。
- (2) ④ストッパープレートを抑えブッシュに沿って折り曲げてください。
- (3) 短い方のボルトにもう片方の穴が入れば装着完了です。
- (4) 取付け時はプレート部分の折り曲げた部分が内側に来るようにプレートを抑え、中のブッシュを回すようにしてください。

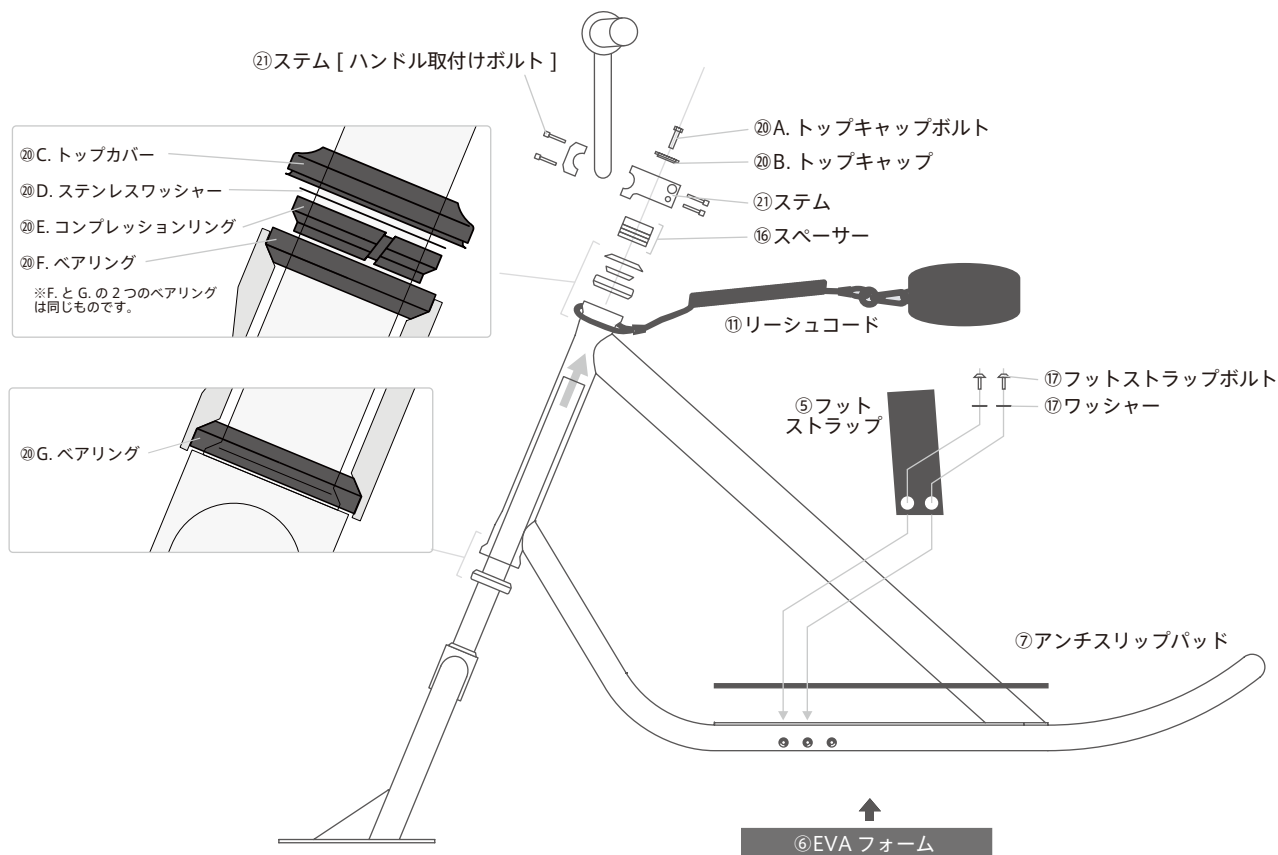


ストッパープレートは大変鋭利なため、手を切らないように十分ご注意ください。

使用するインサートホールについて

ボードの種類により、複数のインサートホールがあります。ONE、ONE-D に関してはフロントボードの一番前側が旧モデル互換用のため使用しません。その他のボードに関しては、基本的に前後ボードのスパンが一番短くなるように、フロントボード一番前側、リアボード一番後ろ側としていますが、この位置で前後ボードが干渉する場合はリアボードを一つ前にずらしてください。

2 フレームキットの組み立て



(1) フォークをフレームに取り付けます。

フォーク側に㊸G. ベアリングをセットして、ヘッドチューブに挿入します。フレーム上部より㊸F. ベアリング、㊸E. コンプレッションリング、㊸D. ステンレスワッシャー、㊸C. トップカバーの順に取り付けます。さらに㊸I. リーシュコードも取付け、その後㊸J. スペーサー、㊸K. システムとセットします。右の「ヘッドベアリングの調整」を参照ください。

(2) システムにハンドルを取付けます。

㊸L. システムのハンドル取付け部のボルト 4 本を外して、ハンドルを溝に合せてからボルトを締めます。ここでは仮止めとして動かない程度に締めてください。※ボード取付け後、9 ページの「ハンドルの調整」にならって調整を行ってください。

(3) フットストラップを取り付けます

㊸M. フットストラップボルトでワッシャーはストラップの外側にして取付けます。※ A22、70L、G70 の取付けを位置を調整できますが、わからない場合は前側に取付けてください。

(4) アンチスリップパッドを貼り付ける

ボード取付け穴 (4 ヶ所) に合わせながら貼り付けてください。

(5) EVA フォームを取付ける

切り欠きがトップチューブに合うように入れてください。SAS 搭載モデルはさらに左右 2 か所がカットされています。



ヘッドベアリングの調整

※システムのコラム側のボルトを緩めた状態で行ってください。



㊸N. トップキャップを取付ける前にフォークコラム上面が取付け面よりも 3mm 程低くなっていることを確認してください。

※フォークコラムがそれ以上に高いまたは低い場合はスペーサーで調整してください。特にフォークコラムがシステム及びスペーサーよりも高い場合はうまく締め付けることが出来ません。

㊸O. トップキャップボルトを締め付けます。このボルトはどこまでも締まっていますが、抵抗が出てきたら止めてください

※フォークの回転がスムーズに回ることを確認してください。回転が重い場合は締めすぎているので緩めてください。



図のようにフレームを固定し、フォークを上下方向に揺すります。ガタついている場合は㊸O. トップキャップボルトをガタつきがなくなるまで締めこんでください。

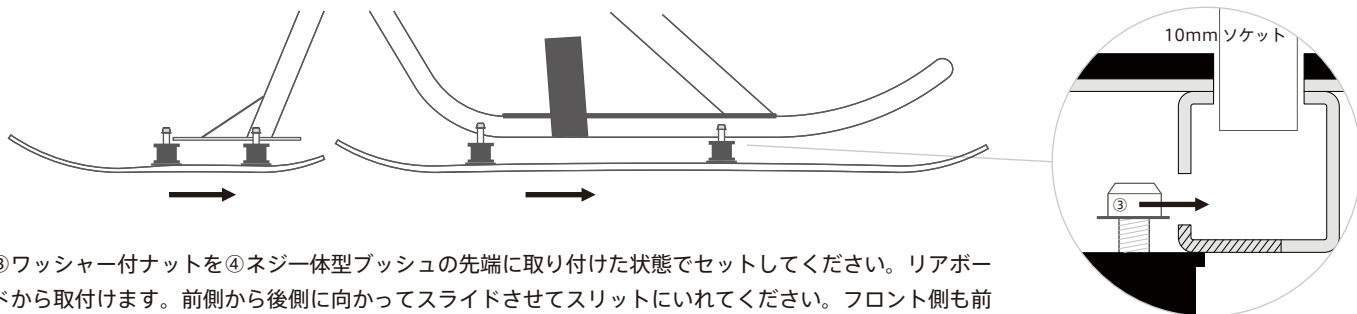
・トップキャップボルトは、締めすぎるとハンドルが重くなるだけでなく、ベアリングの異常摩耗や破損につながるので注意して下さい。
・購入してから初回、または数回乗るとベアリングが馴染んで、ヘッドセットがガタつくようになる場合があります。必ず調整して下さい。
※上記事項を守らないとスノースケートに損傷を与えたり、操縦のコントロールを失ったり、乗り手の怪我や死亡につながる危険があるほか、他人を怪我や死亡事故に巻き込む危険もあります。



3 ボードとフレームの取り付け

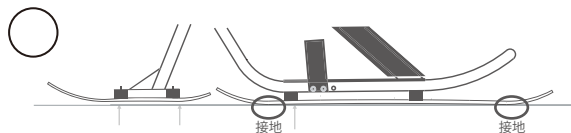
(1) SAS (スマートアタッチシステム) 搭載モデル ONE-D、A22、70L、G70

MINI は 8 ページをご覧ください。



③ワッシャー付ナットを④ネジ一体型ブッシュの先端に取り付けた状態でセットしてください。リアボードから取付けます。前側から後側に向かってスライドさせてスリットに入れてください。フロント側も前側から後ろ側に向かってスライドさせてください。その後、工具（10mm ソケット）を使って本締めを行います。※締付けトルク：8～8.5 Nm（80～85Kgf・cm）

ボードのレベル出し



フロントボードはリアボードより 1～3mm ほど浮いている

隙間ある場合はここに調整用シムを入れてください

- (1) 一度手順通りにボードを取付けてください。
- (2) 平らな床の上に置き横から見て浮いているところを確認します。
- (3) 浮いている部分にスペーサーを入れます。

※フロントボードがリアボードよりも1～3mm浮いている状態で問題ありません。フロントボードがリアボードより下がっている状態は好ましくありません。

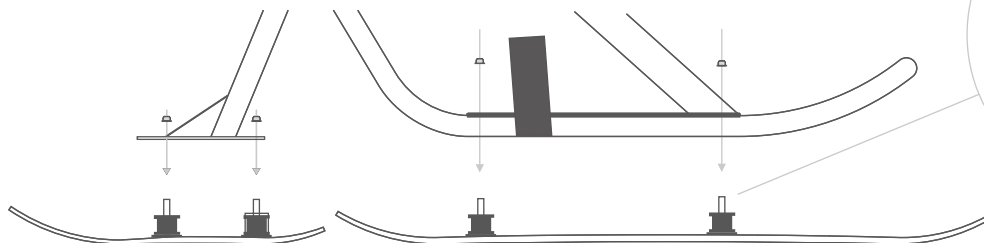


締め方が弱い場合、強過ぎる場合はボルト破損やボード脱落などの不具合や異常が発生し、スノースケートに損傷を与えたり、操縦のコントロールを失ったり、乗り手の怪我や死亡につながるほか、他人を怪我や死亡に巻き込む危険もありますのでボルトは適切に締めてください。

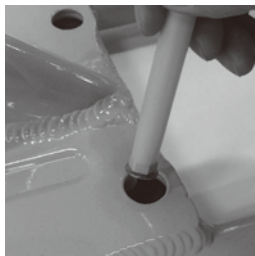
3 ボードとフレームの取り付け

(2) MINI

SAS (スマートアタッチシステム) 搭載モデルは7ページをご覧ください。



④ネジ一体型ブッシュのボルトを⑩フレーム、⑧フォークの取付け穴に挿入します。入りにくい場合はリアボードの取付けから行ってください。その後、③ワッシャー付ナットを入れて工具(10mmソケット)で締めこんでいきます。フロントボードも同様に取付けます。(合計8カ所)※締め付けトルク:8 ~ 8.5 Nm (80 ~ 85Kgf・cm) ※取付け後、8ページの「ボードのレベル出し」を必ず行ってください。



フレーム側の③ワッシャー付ナットを取付ける時は、付属の⑯ナット保持ツールを使用し仮止めを行ってから、工具(10mmソケット)で締め付けを行ってください。

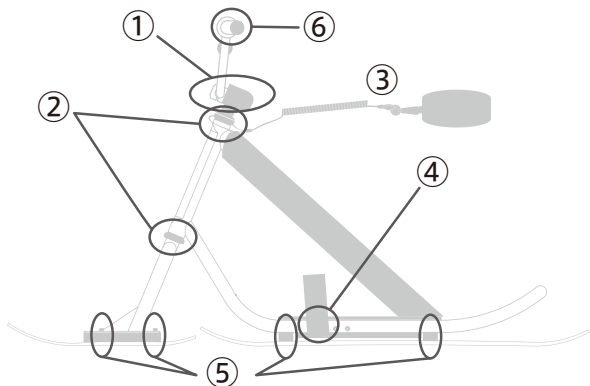


締め方が弱い場合、強過ぎる場合はボルト破損やボード脱落などの不具合や異常が発生し、スノースケートに損傷を与えたり、操縦のコントロールを失ったり、乗り手の怪我や死亡につながるほか、他人を怪我や死亡に巻き込む危険もありますのでボルトは適切に締めてください。

滑走前・使用中点検

スノースケートを安全にご使用いただくために滑走前に必ず点検してください。長時間または繰り返し滑走する場合には、使用中も点検してください。

- 全ての部品は正確に取付けられていますか？
- 各部にガタつき、緩みはありませんか？
- 破損、亀裂はありませんか？



- ①ステムのボルト 6本 ②ヘッドセットのガタつき ③リーシュコードの緩みや破損
④フットストラップの取付けボルト 4本 ⑤ボードの取付けネジ 8カ所 ⑥グリップの緩み

また、滑走中の転倒などにより過度の力が加わった場合はハンドルなどが微妙にずれる場合があります。ゲレンデ上ですぐに直せるように、付属の携帯工具は常に身に付けるようにしてください。特に新品の場合で最初は緩みやすいので、滑走中にも確認してください。



調整を必要としない場合でも、異常が無い場合でも必ず点検をして下さい。ボルトやナットに緩みがあったり、その他異常のあった場合には必ず修理調節などを行って不具合を解決してから滑走して下さい。不具合があるまま滑走するとスノースケートに損傷を与えたり、操縦不能になったり、思わぬ事故となつて、乗り手の怪我や死亡につながるほか他人を怪我や死亡事故に巻き込む危険もありますので、絶対にお止め下さい。

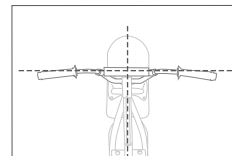
ハンドルの調整

調整にはハンドル自体の角度とボードに対しての角度と2つあります。



ステム本体にハンドルを取付ける場合は、地面に対して手前側に約10度の角度が一般的なセッティングとなります。本締めを行うときには一気に締めず、①が均等になるように、4ヶ所を徐々に締め付けてください。

ボードの進行方向に対して、直角に取り付けます。手前側のボルトを2ヶ所締め付けます。一気に締めず徐々に締めてください。
※この作業は全て組み上がってから最後に必ず行ってください。



ステムとハンドルバーがフロントフォークコラムにしっかりと固定されているか確認して下さい。この締め付けが弱いとスノースケートに損傷を与えたり、操縦のコントロールを失ったり、乗り手の怪我や死亡につながるほか、他人を巻き添えにする危険もありますので必ず点検・確認を行ってください。

運搬・輸送・保管

キャリーバッグPro-D(分解収納タイプ)

ハンドルバーとボードを外して収納するコンパクトタイプの専用バッグ。SAS(スマートアタッチシステム)搭載モデルに最適。



サイズ
高さ: 70cm
長さ: 125cm
幅: 30cm

外ポケット1カ所
ベンチレーション4カ所

※SAS非搭載でも分解すれば収納できます

ソールカバー

ボードシェイプに合わせて設計された専用カバー。滑走面全体を保護できます。ボードサイズに合わせて7種類を用意。フレームからボードを外さなくても使えます。



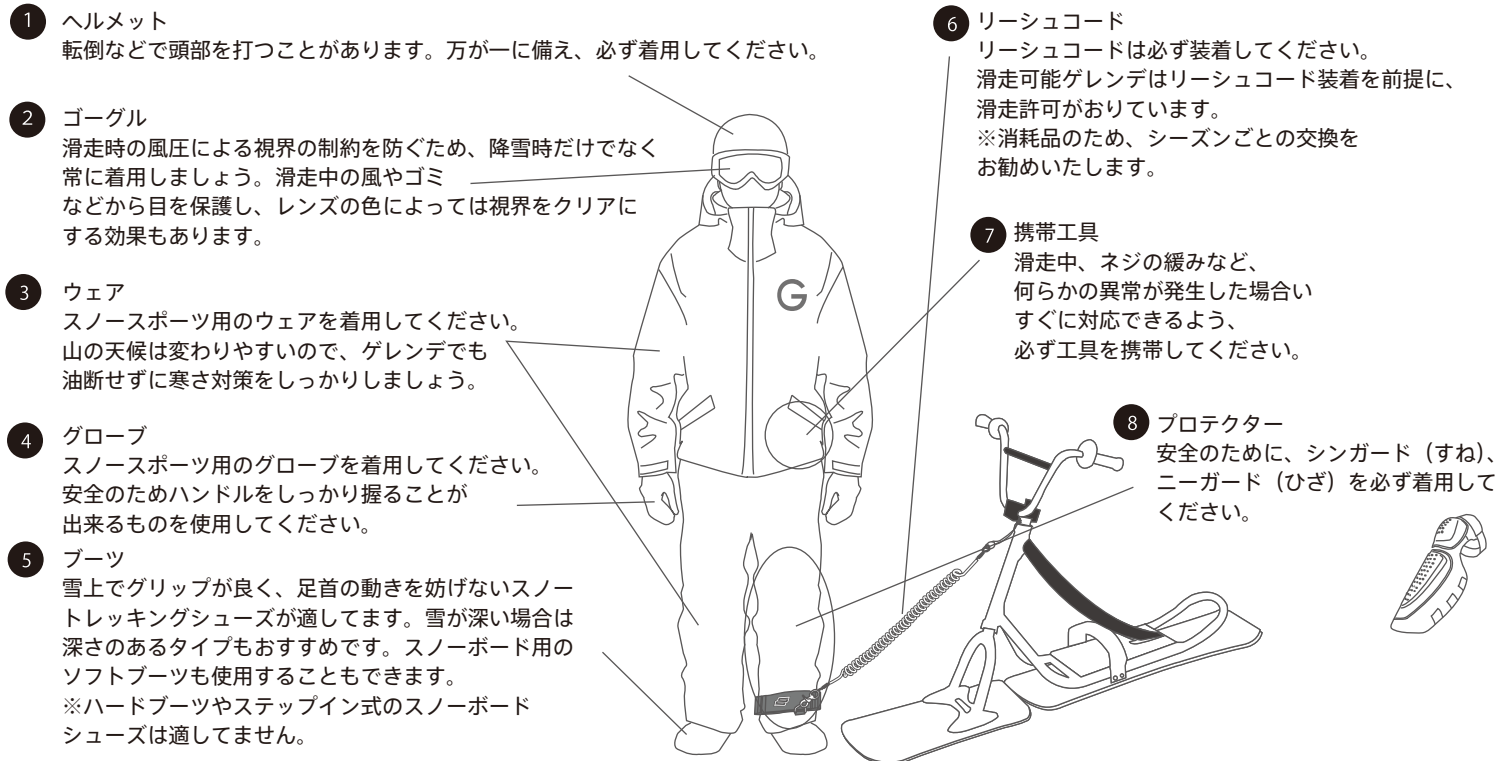
ボードケース

モデルを問わず、ブッシュを取り付けた状態のボードを2セットまで収納できる専用バッグ。外側に3つのポケット付き。



滑走の前にお読みください

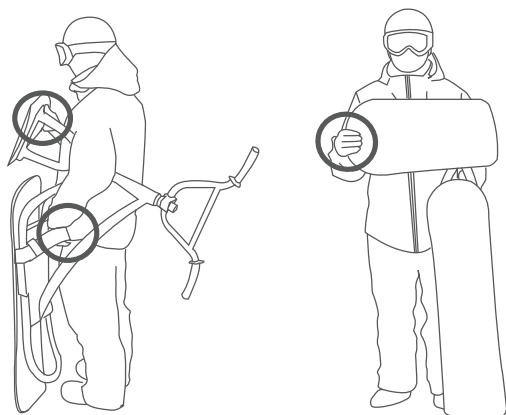
装備・服装

- 1 ヘルメット**
転倒などで頭部を打つことがあります。万が一に備え、必ず着用してください。
 - 2 ゴーグル**
滑走時の風圧による視界の制約を防ぐため、降雪時だけでなく常に着用しましょう。滑走中の風やゴミなどから目を保護し、レンズの色によっては視界をクリアにする効果もあります。
 - 3 ウェア**
スノースポーツ用のウェアを着用してください。山の天候は変わりやすいので、ゲレンデでも油断せずに寒さ対策をしっかりしましょう。
 - 4 グローブ**
スノースポーツ用のグローブを着用してください。安全のためハンドルをしっかり握ることが出来るものを使用してください。
 - 5 ブーツ**
雪上でグリップが良く、足首の動きを妨げないスノーレッキングシューズが適してます。雪が深い場合は深さのあるタイプもおすすめです。スノーボード用のソフトブーツも使用することもできます。
※ハードブーツやステップイン式のスノーボードシューズは適してません。
 - 6 リーシュコード**
リーシュコードは必ず装着してください。滑走可能ゲレンデはリーシュコード装着を前提に、滑走許可がおりています。
※消耗品のため、シーズンごとの交換をお勧めいたします。
 - 7 携帯工具**
滑走中、ネジの緩みなど、何らかの異常が発生した場合にすぐに対応できるように、必ず工具を携帯してください。
 - 8 プロテクター**
安全のために、シンガード（すね）、ニーガード（ひざ）を必ず着用してください。
- 



リーシュコードは亀裂や損傷がないか、確認してから装着してください。異常があった場合には、すぐに新品と交換してください。
リーシュコードを装着していなかったり、切れたりした場合は乗り手はもちろん、他人を怪我や死亡事故に巻き込む危険があります。

ゲレンデでの持ち運び方



フットストラップの調整方法



フットストラップはスキーやスノーボードのビンディングとは異なります。足が動かない程にきつく絞め付けたりすると、緊急時に足が抜けなくなってしまい大変危険です。足の甲の部分が上下動く程度で、横方向が固定されるように調整します。

スノースクートを立て、ヘッドチューブを脇に抱えるようにして手はフットストラップにかけ持ち上げます。

もう一方の手は、フロントボードをしっかりと掴みましょう。

この時、フロントボードは横になっているようにします。

こうすると、後ろに出ているハンドルは地面と垂直になり、スペースは新聞紙程しか取りませんので、狭い場所でも邪魔になりません。

また、ボードのエッジが視界に入りますので、他人や物を傷つけないよう気をつけながら移動することができます。ハンドルが背後に出ているので、体の向きを変えるときや後ろに下がる時には、周囲の（特に背後の）人や物に当たらないように十分注意してください。

フロントボードを持った手を動かしたり、話したりすると、ハンドルが暴れて危険ですので必ずしっかりと掴んでください。

マナー・滑走可能ゲレンデ

マナー

各スキー場の規則・ルールに従ってください。

滑走中は常時リーシュコードを装着して、まわりの人や物に細心の注意を払い、接触事故がおきないようにしてください。常にスノースクートをコントロールできるスピード・斜面でお楽しみください。

滑走可能ゲレンデ

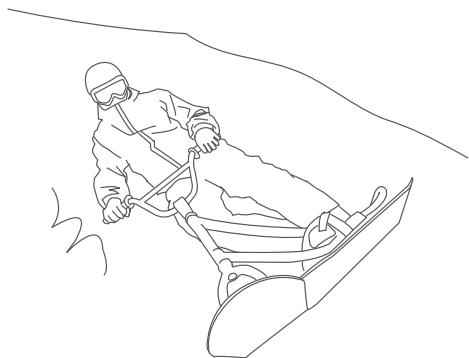
スノースクートの滑走が許可されていないゲレンデでは、絶対に滑走しないでください。滑走可能なゲレンデは弊社ホームページ (<https://snowscoot.co.jp>) にてご確認いただけます。

ご覧になることができない方は、ご購入いただきました販売店にてご相談ください。

滑走時のポイント

滑走方法

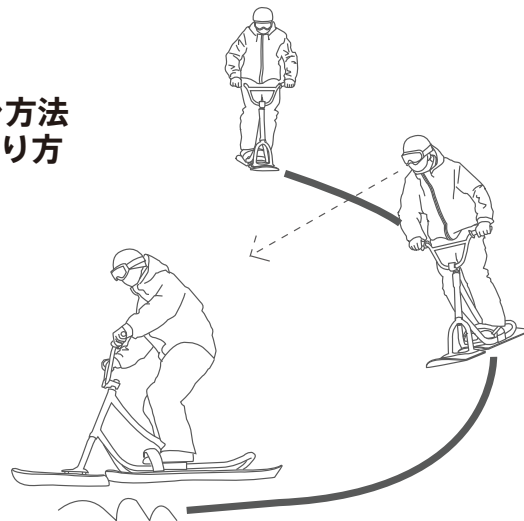
(1) 基本的な転び方



転ぶ時は、山側に倒れるようにします。谷側に倒れると、そのまま転がり落ちてしまったり、反動で投げ出されてしまったりして危険ですので注意しましょう。

また、転ぶ時は、ハンドルを持った手を離さないようにしてください。手を離すと、ハンドルが暴れて自分の体にあたってしまったり、スノースクートが投げ出されて自分や他人に危害を与えてしまう可能性があります。

(2) ターン方法と止まり方



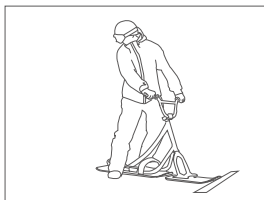
行きたい方向にハンドルを切ることをきっかけに、ターンの内側に体とスノースクートを傾けます。山側（ターンの内側）の足に加重しましょう。視線は行きたい方向に向けます。

止まる時は、横向きの状態でスノースクートを傾け、山側の足にさらに加重しエッジを立てて止まります。この時、一度加重を抜いてから再度加重するとしっかり止まることができます。

ターンを続ける場合も一度加重を抜き、反対向きに方向転換をして、同じようにターンの内側に体とスノースクートを傾け山側の足に加重していきます。

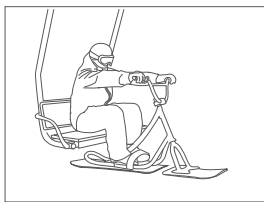
リフトの乗降車

1



片足をフットストラップに差し込み、両手でハンドルを握り停止線でリフトを待って下さい。
フットストラップに足を差し込まないと、スノースクートの重量を支えきれなくなりスノースクートや本人が落下する可能性がありますので、必ずフットストラップに片足を差し込んで下さい。

2



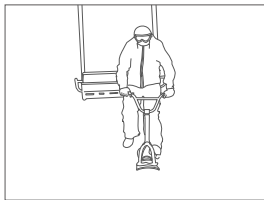
リフトが来たらそのままの姿勢で、リフトに深く腰を掛けて下さい。スノースクートが雪面から離れるときに、ハンドルを自分の方に引き寄せて下さい。

3



乗車中はハンドルから手を離さないで両足をフットストラップに差し込んで下さい。
リフトが移動中は前を向きそのままの姿勢を保って下さい。

4



降り場が近づいてきたら、リフト上で片足をストラップから外します。
リフトから降りるときはスノースクートが雪面に接してから降車位置で立ち上がり、自由な足で地面を蹴り、勢いをつけて降りて下さい。



ジック・ジャパン株式会社

〒108-0022 東京都港区海岸3-12-9 海岸ビル5F

TEL:03-6435-1413 FAX:046-874-4139

snowscoot@jykk.com

www.snowscoot.co.jp